

第144期末(2024年2月15日)	
基準価額	9,065円
純資産総額	41,679百万円
第139期～第144期	
騰落率	4.3%
分配金(税込み)合計	120円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

## ピクテ・アセット・ アロケーション・ ファンド(毎月分配型) 愛称:ノアリザーブ

追加型投信／内外／資産複合

第139期(決算日2023年9月15日) 第142期(決算日2023年12月15日)  
第140期(決算日2023年10月16日) 第143期(決算日2024年1月15日)  
第141期(決算日2023年11月15日) 第144期(決算日2024年2月15日)

作成対象期間: 2023年8月16日～2024年2月15日

### 受益者のみなさまへ

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記の弊社ホームページを開き「ファンド」より当ファンドの名称を選択いただき、さらに「運用報告書(全体版)」を選択いただきますと運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 書面での運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、「ピクテ・アセット・アロケーション・ファンド(毎月分配型)」は、このたび、第144期の決算を行いました。当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む世界の株式および公社債ならびに金(デリバティブ取引を含めます。)等に投資することにより信託財産の成長と利子・配当等収益の確保を図ることを目的としております。当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

## ピクテ・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内2-6-1

お問い合わせ窓口

投資信託営業部

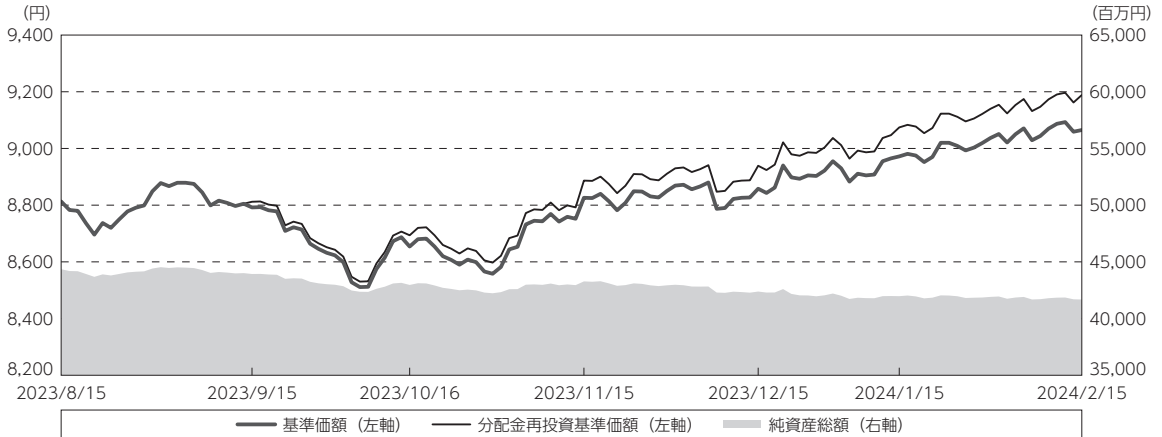
電話番号 03-3212-1805

受付時間: 委託者の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページ: [www.pictet.co.jp](http://www.pictet.co.jp)

# 運用経過

## 基準価額等の推移



第139期首：8,813円

第144期末：9,065円 (既払分配金(税込み)：120円)

騰落率：4.3% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2023年8月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

## 基準価額の主な変動要因

- 上昇↑・実質的に組入れている株式の価格が上昇したこと
- 上昇↑・実質的に組入れている金の価格が上昇したこと
- 上昇↑・円に対して米ドルなどが上昇したこと
- 上昇↑・実質的に組入れている株式や債券からの配当・利金収入
- 上昇↑・実質的に組入れている債券の価格が上昇したこと
- 下落↓・為替ヘッジコスト

## 1 万口当たりの費用明細

(2023年8月16日～2024年2月15日)

項 目	第139期～第144期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	43	0.487	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	( 5 )	(0.055)	・ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価
( 販 売 会 社 )	(37)	(0.415)	・購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価
( 受 託 会 社 )	( 1 )	(0.017)	・ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	4	0.045	(b) 売買委託手数料＝作成期間の売買委託手数料÷作成期間の平均受益権口数
( 投 資 信 託 証 券 )	( 4 )	(0.045)	・売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	(c) 有価証券取引税＝作成期間の有価証券取引税÷作成期間の平均受益権口数
( 投 資 信 託 証 券 )	( 0 )	(0.000)	・有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	5	0.054	(d) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 0 )	(0.001)	・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
( 監 査 費 用 )	( 0 )	(0.001)	・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( そ の 他 )	( 5 )	(0.052)	・その他は、一部の組入れ投資信託証券の管理報酬および目論見書、運用報告書等法定の開示書類の作成等に要する費用その他信託事務の処理等に要する諸費用
合 計	52	0.586	
作成期間の平均基準価額は、8,820円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

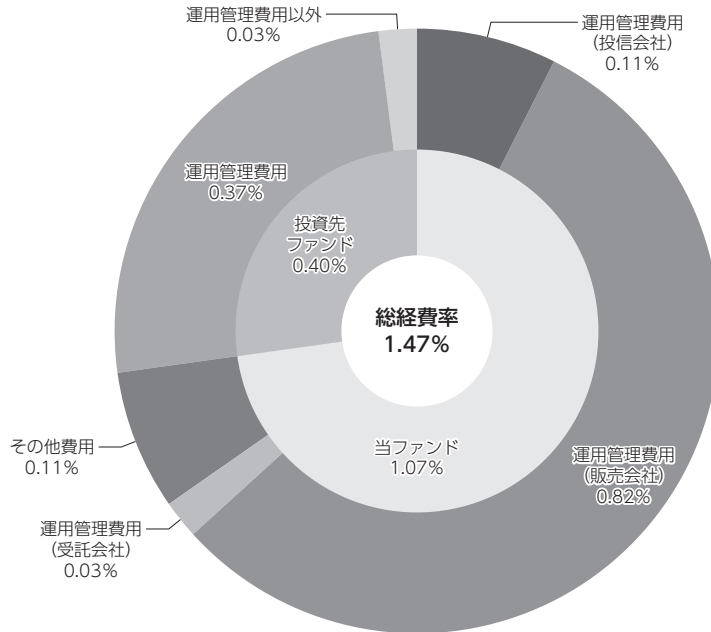
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

## ○総経費率

当作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.47%です。

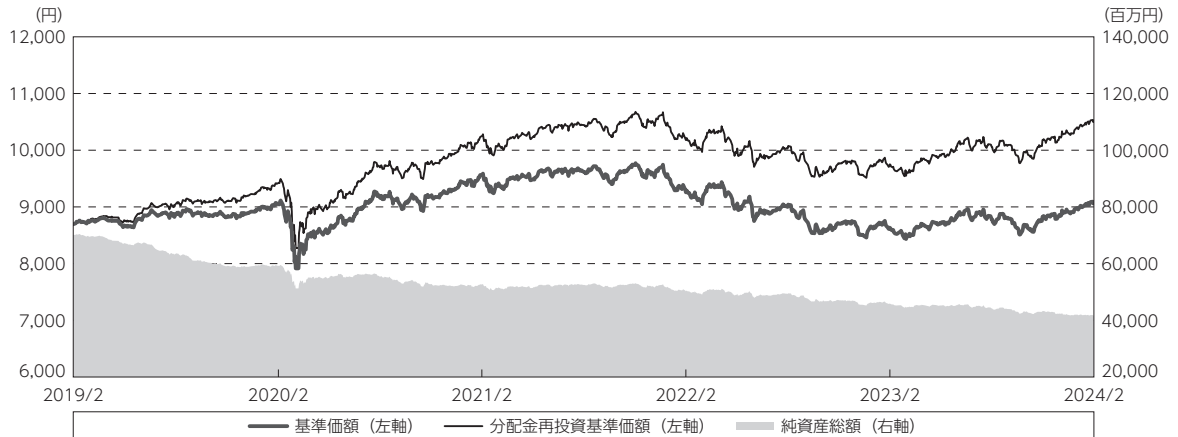


(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.47
①当ファンドの費用の比率	1.07
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.37
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03

- (注) ①の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。  
 (注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。  
 (注) 各比率は、年率換算した値です。  
 (注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券です。  
 (注) ①の費用のうち、その他費用には一部の投資先ファンドの運用管理費用が含まれます。  
 (注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。  
 (注) ③その他費用の比率が入手できない投資信託証券の場合、②運用管理費用の比率に総経費率を集計しています。  
 (注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移 (2019年2月15日～2024年2月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 分配金再投資基準価額は、2019年2月15日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2019年2月15日 決算日	2020年2月17日 決算日	2021年2月15日 決算日	2022年2月15日 決算日	2023年2月15日 決算日	2024年2月15日 決算日
基準価額 (円)	8,694	9,045	9,559	9,257	8,631	9,065
期間分配金合計(税込み) (円)	—	360	260	240	240	240
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	8.4	8.8	△ 0.7	△ 4.2	7.9
純資産総額 (百万円)	70,049	59,186	52,640	50,236	45,856	41,679

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。  
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。  
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

## 投資環境

---

- ・世界の株式市場は、2023年8月下旬以降は、ユーロ圏や中国景気の先行き不透明感、米国における国債増発などを受けた高金利環境の長期化懸念などから、10月にかけて下落基調で推移しました。その後当作成期末にかけては、米国や欧州でのインフレの沈静化に進展がみられたことや主要中央銀行による利上げ停止および利下げ観測が高まったこと、堅調な米景気指標などを背景に米国経済のソフトランディング期待が高まったことなどを材料に、世界の株式市場は上昇しました。
- ・世界の国債市場は、2023年10月にかけては、根強いインフレ圧力などを背景に米連邦準備制度理事会（FRB）や欧州中央銀行（ECB）など主要国・地域の中央銀行による金融引き締めが長期化することの見方が強まったことなどを背景に、下落（利回りは上昇）しました。11月から12月末にかけては、欧米をはじめとする主要先進国においてインフレ水準の鈍化がみられたことから、FRBなどの主要国・地域中央銀行の利上げ終了観測および早期利下げ期待が高まったため、世界の国債市場は上昇（利回りは低下）しました。その後は、堅調な米景気指標や、底堅い賃金データなどを背景にFRBやECBが利下げ開始を急がない姿勢を示したことから、世界の国債市場は当作成期末にかけて下落（利回りは上昇）しました。
- ・金価格（米ドル・ベース）は、2023年10月上旬にかけては、FRBが利上げ継続姿勢を示し、年内の追加利上げ観測などから米国金利や米ドルが上昇したことで金価格は下落しました。その後は、中東情勢の緊迫化を受けた安全資産としての需要の高まりに加え、FRBの利上げサイクルの終了、早期利下げ期待の高まりなどを背景に米国金利が低下し、米ドルが下落したことから2023年の年末ごろまで上昇傾向となりました。年明け以降は、米国の堅調な経済指標などからFRBの早期利下げ観測が後退したことなどから、金価格は当作成期末にかけて軟調に推移しました。
- ・為替市場では、2023年11月中旬にかけては、米大手格付け会社による米国国債の格下げや米国国債の増発懸念、根強いインフレ圧力を受けて米長期金利が上昇したことから、円安・米ドル高が進行しました。その後は、米国のインフレ圧力鈍化や労働市場の需給緩和の兆しなどを背景にFRBの利下げ期待が高まったほか、日本銀行の金融緩和政策の修正観測などを受けて、2023年の年末にかけて円高・米ドル安となりました。2024年の年初から当作成期末にかけては、堅調な米景気指標やFRB高官からの市場利下げ織り込みをけん制する発言などを受けて、円安・米ドル高となりました。期を通してみると、米ドルは対円で上昇しました。

## 当該投資信託のポートフォリオ

---

投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む世界の株式および公社債ならびに金等に投資することにより信託財産の成長と利子・配当等収益の確保を図ることを目的に運用を行ってまいりました。

- ・前作成期末から、2023年9月にかけては、株式部分では、日本株式およびコア・エクイティの組入比率を引き上げたほか、ロボティクス関連株式の組入れを開始しました。その一方で、米国株式（ETF）、アジア（除く日本）株式を売却したほか、ブランド関連株式やスイス株式などの組入比率を引き下げました。債券部分は、米ドル建てソブリン債、米国物価連動国債（ETF）などの組入比率を引き上げた一方、ユーロ建てソブリン債の組入比率を引き下げました。
- ・10月は、株式部分では、米国株式（ETF）および世界エネルギー株式（ETF）の組入れを開始しました。その一方で、ブランド関連株式を売却しました。債券部分は、米ドル建てソブリン債の組入比率を引き上げた一方、ユーロ建てソブリン債および日本国債（ETF）の組入比率を引き下げました。
- ・11月は、ロボティクス関連株式、米国株式（ETF）、デジタル・コミュニケーション関連株式、スイス株式などを売却しました。その一方で、ディフェンシブ戦略株式およびスタイル株式の組入比率を引き上げました。債券部分は、米ドル建てソブリン債およびユーロ建てソブリン債を売却しました。その一方で、先進国ソブリン債、欧州国債（ETF）、世界ESG関連社債などの組入れを開始しました。
- ・12月は、株式部分では、ディフェンシブ戦略株式および世界高配当公益株式の組入比率を引き上げました。その一方で、日本株式、新興国高配当株式などの組入比率を引き下げました。債券部分は、日本国債（ETF）、欧州国債（ETF）などの組入比率を引き上げた一方、米国公債（ETF）の組入比率を引き下げました。
- ・2024年1月から当作成期末にかけては、株式部分では、世界スタイル株式、ディフェンシブ戦略株式などの組入比率を引き上げました。その一方で、世界高配当公益株式を売却しました。債券部分は、先進国ソブリン債や米ドル建て新興国債券などの組入比率を引き上げた一方、米国公債（ETF）を売却しました。

## 当該投資信託のベンチマークとの差異

---

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

## 分配金

当作成期中の1万口当たり分配金（税込み）は以下のとおりといたしました。  
 なお、留保益については、元本部分と同一の運用を行います。

### ◆分配金および分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第139期	第140期	第141期	第142期	第143期	第144期
	2023年8月16日～ 2023年9月15日	2023年9月16日～ 2023年10月16日	2023年10月17日～ 2023年11月15日	2023年11月16日～ 2023年12月15日	2023年12月16日～ 2024年1月15日	2024年1月16日～ 2024年2月15日
当期分配金	20	20	20	20	20	20
(対基準価額比率)	0.227%	0.231%	0.226%	0.225%	0.222%	0.220%
当期の収益	1	2	15	5	6	4
当期の収益以外	18	17	4	14	13	15
翌期繰越分配対象額	1,142	1,125	1,121	1,106	1,093	1,078

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は小数点以下を切捨てて表示しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

(注) この様式で示される「当期の収益」は、当ファンドが投資する投資先ファンドからの分配金を受取った場合、実質的に「当期の収益以外」の原資が含まれて表示されることがあります。

## 今後の運用方針

投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む世界の株式および公社債ならびに金等を投資対象とし、信託財産の成長と利子・配当等収益の確保を図ることを目的に運用を行っていく方針です。

米国の経済が予想以上に底堅く推移していることに加え、物価上昇圧力の緩やかな鈍化が続いていることから、投資環境には改善傾向が見られます。このため足元の好調な資産価格に出遅れることのないよう、リスク資産に対する判断を戦術的に引き上げる予定です。ただし、FRBの流動性が数か月以内に悪化に向かう可能性があることや、株式市場の上昇がごく一部の銘柄によってけん引されている点を踏まえ、環境悪化の兆候が見られる場合には、機動的にリスク資産の組入比率を引き下げること検討しています。



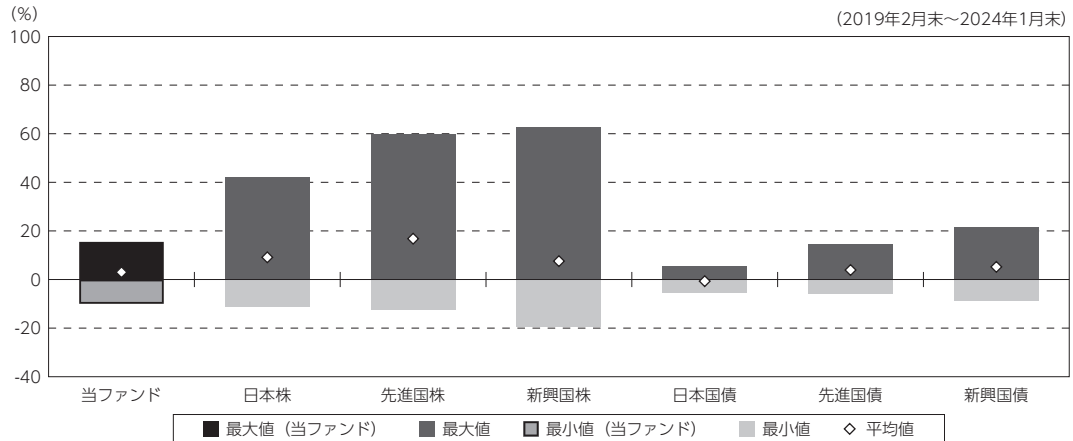
# お知らせ

投資対象とする投資信託証券の追加および削除に伴い、所要の約款変更を行いました。

## 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2012年2月29日（当初設定日）から無期限です。
運用方針	主に投資信託証券に投資を行い、信託財産の成長と利子・配当等収益の確保を図ることを目的に運用を行います。
主要投資対象	投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	<p>①投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む世界の株式および公社債ならびに金（デリバティブ取引を含めます。）等に投資することにより信託財産の成長と利子・配当等収益の確保を図ることを目的に運用を行います。</p> <p>②投資信託証券への投資にあたっては、委託者が各資産の収益とそのリスク見通しを分析して指定投資信託証券の中から選択し、その配分比率を決定します。また、組入資産および配分比率については、適宜見直しを行います。</p> <p>③外貨建資産については、為替ヘッジが必要と判断した場合は為替ヘッジを行うことがあります。</p>
主な投資制限	<p>①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。</p> <p>②投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託の受益証券以外の有価証券への直接投資は行いません。</p> <p>③外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。</p>
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。</p> <p>③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	15.5	42.1	59.8	62.7	5.4	14.8	21.5
最小値	△ 10.0	△ 11.4	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	3.0	9.1	16.8	7.6	△ 0.7	3.9	5.2

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2019年2月から2024年1月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

### ○各資産クラスの指標

日本株 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株 MSCI コクサイ 指数 (税引前配当込み、円換算)

新興国株 MSCI エマージング・マーケット 指数 (税引前配当込み、円換算)

日本国債 NOMURA - BPI 国債

先進国債 FTSE 世界国債 指数 (除く日本、円換算)

新興国債 JP モルガン GBI - EM グローバル・ディバーシファイド (円換算)

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジをしない投資を想定して、ドルベースの各指数を委託者が円換算しております。

# 当該投資信託のデータ

## 当該投資信託の組入資産の内容

(2024年2月15日現在)

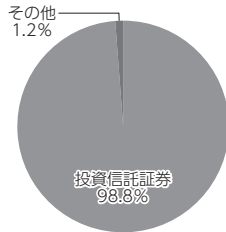
### ■組入上位ファンド

銘 柄 名	第144期末 %
ピクテ優良財政国債券ファンド(適格機関投資家専用)	20.1
ピクテ・グローバル・ディフェンシブ・エクイティ・ファンド(適格機関投資家専用)	19.1
ピクテ(CH)プレシヤス・メタル・ファンドーフィジカル・ゴールド	18.4
その他	41.3
組入銘柄数	13銘柄

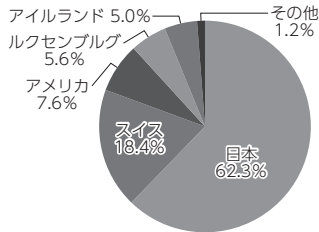
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

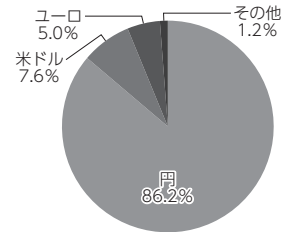
### ■資産別配分



### ■国別配分



### ■通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等(日本・円)を含む場合があります。

## 純資産等

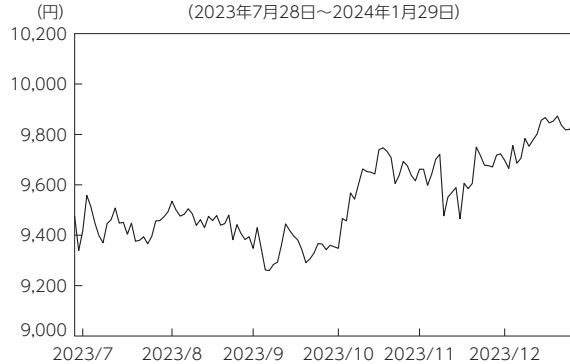
項 目	第139期末	第140期末	第141期末	第142期末	第143期末	第144期末
	2023年9月15日	2023年10月16日	2023年11月15日	2023年12月15日	2024年1月15日	2024年2月15日
純 資 産 総 額	43,930,066,985円	42,964,616,491円	43,276,907,054円	42,381,351,198円	41,973,915,837円	41,679,600,679円
受 益 権 総 口 数	49,967,550,509口	49,646,291,104口	49,033,116,427口	47,843,208,301口	46,784,885,817口	45,979,662,366口
1万円当たり基準価額	8,792円	8,654円	8,826円	8,858円	8,972円	9,065円

(注) 当作成期間(第139期～第144期)中における追加設定元本額は760,481,230円、同解約元本額は5,106,423,723円です。

## 組入上位ファンドの概要

### ピクテ優良財政国債券ファンド (適格機関投資家専用)

#### ■基準価額の推移



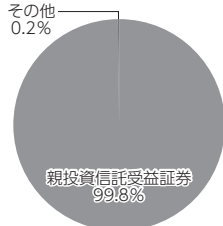
(注) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は当組入上位ファンドの直近の作成期間のものです。

#### ■組入上位ファンド

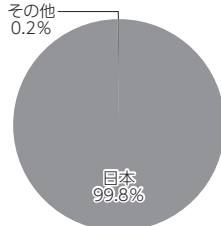
銘柄名	第107期末
ピクテ先進国ソブリン・マザーファンド	99.8%
組入銘柄数	1銘柄

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。  
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

#### ■資産別配分



#### ■国別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。  
 (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。  
 (注) その他にはコール・ローン等(日本・円)を含む場合があります。

#### ■1万口当たりの費用明細

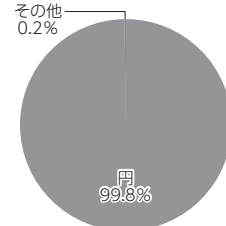
(2023年7月28日～2024年1月29日)

項目	第102期～第107期	
	金額	比率
(a) 信託報酬 ( 投 信 会 社 ) ( 販 売 会 社 ) ( 受 託 会 社 )	32 (30) ( 1) ( 1)	0.335 (0.319) (0.006) (0.011)
(b) その他費用 ( 保 管 費 用 ) ( 監 査 費 用 ) ( そ の 他 )	5 ( 3) ( 3) ( 0)	0.056 (0.027) (0.029) (0.000)
合 計	37	0.391

作成期間の平均基準価額は、9,501円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。  
 (注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) その他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

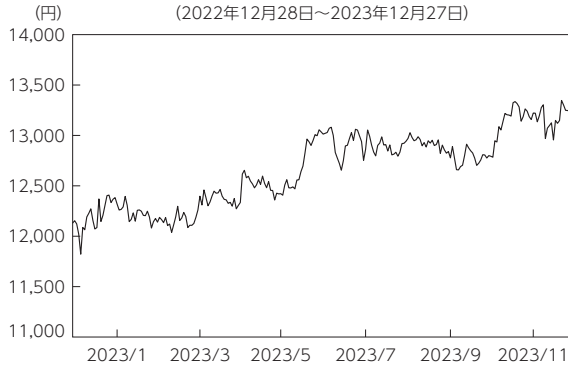
#### ■通貨別配分



## ピクテ優良財政国債券ファンド（適格機関投資家専用）における組入上位ファンドの概要

### ピクテ先進国ソブリン・マザーファンド

#### ■基準価額の推移



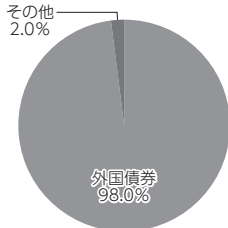
#### ■組入上位10銘柄

(2023年12月27日現在)

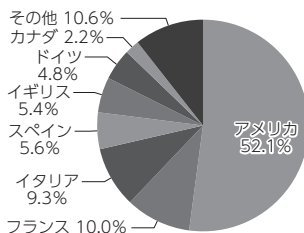
順位	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
1	5% US TREASURY N/B	国債証券	米ドル	アメリカ	10.4%
2	4.375% US TREASURY N/B	国債証券	米ドル	アメリカ	8.7%
3	4.125% US TREASURY N/B	国債証券	米ドル	アメリカ	6.0%
4	3.625% US TREASURY N/B	国債証券	米ドル	アメリカ	5.1%
5	3.375% US TREASURY N/B	国債証券	米ドル	アメリカ	4.1%
6	4.375% US TREASURY N/B	国債証券	米ドル	アメリカ	3.9%
7	3.1% BUNDESSCHATZANWEISU	国債証券	ユーロ	ドイツ	2.8%
8	1.75% FRANCE GOVT	国債証券	ユーロ	フランス	2.3%
9	4.5% US TREASURY N/B	国債証券	米ドル	アメリカ	2.3%
10	4.125% US TREASURY N/B	国債証券	米ドル	アメリカ	2.0%
組入銘柄数			116銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。  
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。  
 (注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

#### ■資産別配分



#### ■国別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。  
 (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。  
 (注) その他にはコール・ローン等（日本・円）を含む場合があります。

#### ■1万口当たりの費用明細

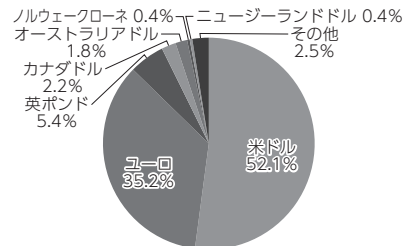
(2022年12月28日～2023年12月27日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 ( 保管費用 ) ( その他 )	7 (7) (0)	0.058 (0.058) (0.000)
合計	7	0.058

期中の平均基準価額は、12,613円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。  
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

#### ■通貨別配分



**ピクテ・グローバル・ディフェンシブ・エクイティ・ファンド (適格機関投資家専用)**

初回決算日が未到来のため該当事項はありません。

## ピクテ (CH) プレシャス・メタル・ファンドーフィジカル・ゴールド

### ■基準価額の推移



(注) 基準価額の推移は当組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

### ■組入上位10銘柄

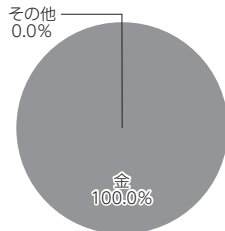
(2023年9月30日現在)

	銘柄	比率
		%
1	GR.GOLD (BAR 12.5KG 995 OR BEST)	94.2
2	GR.GOLD (BAR 1KG 999.9)	5.8
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
組入銘柄数		2銘柄

(注) 比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

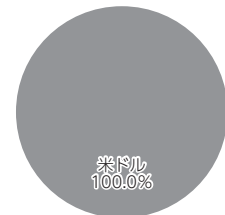
### ■資産別配分



### ■国別配分

該当事項ありません。

### ■通貨別配分



(注) 資産別配分の比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合、通貨別配分の比率は当組入ファンドが組入れている金の評価額合計に対する割合です。

## 指数に関して

### ○ 「代表的な資産クラスと騰落率の比較」に用いた指数について

#### ■ 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) :

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」といいます。) に帰属します。JPXは、同指数の指数値およびそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。JPXは同指数の算出もしくは公表方法の変更、同指数の算出もしくは公表の停止または同指数の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

#### ■ MSCI コクサイ指数 (税引前配当込み) :

MSCI コクサイ指数は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、同指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

#### ■ MSCI エマージング・マーケット指数 (税引前配当込み) :

MSCI エマージング・マーケット指数は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、同指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

#### ■ NOMURA – BPI 国債 :

NOMURA – BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。同指数の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また同社は同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、当ファンドの運用成果に関して一切責任を負いません。

#### ■ FTSE 世界国債指数 (除く日本) :

FTSE 世界国債指数 (除く日本) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券指数です。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

#### ■ JP モルガン GBI – EM グローバル・ディバースィファイド :

JP モルガン GBI – EM グローバル・ディバースィファイドは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的な指数です。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。同指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。